第７回　第１分科会会議録（概要）		場　所	新宿区役所第一分庁舎 ７階研修室
日 時	平成１７年９月２６日 午後６時３０分～午後８時３０分	記録者	【学生補助員】 永井　祐介、古谷　聡子
		責任者	区事務局（菊地、並木）

会議出席者：３５名
（区民委員：２８名　学識委員：２名　区職員：５名　）

■配布資料

１．新宿区民会議　第１分科会（第７回）次第
２．「子ども関連施設」・・・地域の中での子育てグループ発表用資料
３．第６回会議録
４．新宿区・早稲田大学協働連携　第４回「新宿まちづくり学」講座のお知らせ
５．グループ発表に対する意見・提案カード・・・地域グループあて
６．第１分科会第８回・第９回開催についてのお知らせ
７．新宿区都市マスタープラン －21 世紀のまちづくりに向けて－〔概要版〕
８．歩きたくなるまち　新宿
９．新宿中央公園　わくわく☆ちびっこフェスティバルのお知らせ

■進行内容

１．本日の進め方
２．「新宿区次世代育成協議会」の審議状況と「子ども家庭サポートネットワーク」について
３．グループ討議
４．地域グループの発表と討議
５．学識委員からのコメント
６．事務連絡

■会議内容

【発言者】●：区民委員、◎：学識委員、○：区職員

○　：（菊地）定刻を過ぎましたのでこれから分科会を始めます。

本日、お配りした資料の中で１点だけ説明させていただきます。「新宿区都市マスタープラン」と「歩きたくなるまち新宿」という資料を配りました。

「新宿都市マスタープラン」については、今回の区民会議において新宿区の都市マスタープランについても一緒に議論していただいておりますので、この分科会においても子育て等の環境面等について話し合っていますので、参考にお使いいただければと思います。また、「歩きたくなるまち　新宿」についてですが、本来ならば、担当部署の者から少しご説明したいところですが、討議の時間が短くなってしまうため、冊子の中に担当からの文章を挟みましたので、そちらをお読みください。こちらは「こ

んな新宿にしたい」というような提案的なものなので、この内容に関しては皆さんで話し合っていただきたいという区長からのメッセージです。後ほどお読みいただければと思います。

それでは杉山先生に代わります。よろしくお願いします。

１．本日の進め方

◎：（杉山）みなさん、こんばんは。今日はいよいよ発表なのですが、汐見先生から、前の仕事がまだ終わりませんが、発表が始まる７時半にはなんとか駆けつけたいというお話でした。

今日はお配りしています次第のとおりです。これから「新宿区次世代育成協議会」の審議状況と「子ども家庭サポートネットワーク」がつくられスタートしているということなので、子ども家庭課の関原主査からご説明をしていただきたいと思います。その後、グループ討議に入りまして、７時半から「地域の中での子育てグループ」からの発表と討議を行い、最後に事務局からの連絡という予定になっております。

「地域の中での子育てグループ」からの発表と討議につきましては、司会進行役を青少年グループの方にお願いしてあります。

それでは、早速ですが、次第の２番目の「新宿区次世代育成協議会」の審議状況と「子ども家庭サポートネットワーク」について説明をお願いします。

２．「新宿区次世代育成協議会」の審議状況と「子ども家庭サポートネットワーク」について

○：（関原）こんばんは。子ども家庭支援係の関原です。

早速ですが、「新宿区次世代育成協議会」についての説明から始めさせていただきます。

まず、この協議会は「次世代育成支援計画」にも掲載しておりますが、これは以前あった青少年問題協議会の機能と次世代育成支援対策地域協議会の機能を併せもった組織として立ち上げたものです。何をやるかというと、区民の皆さまが安心して子どもを産み、育てることができ、また子どもが心身ともに健やかに育つ環境を整備していきましょう、併せて青少年の健全な成長を支えていく社会を実現しましょう、そのために必要な施策を総合的に考えていきましょうという組織です。

組織のメンバーの構成は区長が会長で、委員が 42 名で構成されております。現在の状況としましては、３つの部会を設けております。部会は「次世代育成支援計画」の目標に合わせた部会になっております。

まず、１つ目の部会は「次世代育成支援計画」の目標１に対応している部会です。「子どもの生きる力と豊かな心を育てます」について議論を深めていただく部会です。

２つ目の部会は「次世代育成支援計画」の目標２と３に対応している部会です。「子

育て支援部会」といいまして「きめこまやかなサービスですべての子育て家庭をサポートします」、「子育てと仕事の両立がしやすい環境づくりを進めます」について議論しております。

３つ目の部会は「次世代育成支援計画」の目標４と５に対応している部会です。「家庭・地域の子育て力・教育力をアップします」、「安心して子育てできる都市環境をつくります」についての部会です。

今、協議会は全体会を１回、その後、部会を各１回開催し終えたところです。年間で全体会、部会、ともに２回の開催を予定しております。

部会ではそれぞれの対応目標について、どんなことが課題なのか事前に委員の方々に考えていただき、課題について解決策を提案していただく予定でおります。まさしく、区民会議において皆さんがやられていることを、「新宿区次世代育成協議会」においては委員の一人ひとりが行い、持ち寄った意見について議論を深めているところです。

委員の任期は２年で、今年と来年にまたがって課題や解決策を整理する予定です。目標としましては第２回の部会を来年の１月から２月に開催する予定で、その中で、どんな課題について掘り下げていくかについて議論していただく予定です。

「新宿区次世代育成協議会」については、以上のような状況です。

続きまして、子どもと家庭に関する施策を総合的に進める体制の整備としまして「次世代育成支援計画」では、仮称として「子ども家庭サポートネットワーク」を立ち上げるとしました。現在では仮称がとれ「新宿区子ども家庭サポートネットワーク」として立ち上げております。

何をやるかというと、次世代育成支援計画書の２０ページのイメージ図をご覧になると分かると思いますが、子どもの虐待防止に関する部会、子ども学校サポート部会、発達支援部会の３つの部会で構成されています。それぞれの簡単なご説明をします。

子どもの虐待防止に関する部会では関係機関の方々と一緒に児童虐待発生防止及び早期発見、児童虐待への対応を所管しています。次に、子ども学校サポート部会では、不登校や学校における問題行動に関して議論を深めています。最後に、発達支援部会では、子どもの心身の発達の支援に関することを所管しています。現在、サポートネットワークは、新宿区の組織の他に国や公共団体が８機関、社会福祉法人などの法人が１４法人、民生児童委員を中心とした個人の方２８６名が参加していただいて組織として運営しております。

子どもの虐待防止に関する部会では、子ども一人ひとりをどうケアしていくかについての議論を行うため、部会全体会とは別に、その子どもに関わる関係者が集まるサポートチームを設置し、会議を開催しているという状況です。

また、発達支援部会では、部会員が発達障害の基礎知識について勉強するということで、研修の場を設けるなどして部会を進めています。

子ども学校サポート部会では、第１回を10月に開催する予定です。不登校に関する調査等も今後進めていきたいと考えています。

「新宿区次世代育成協議会」と「子ども家庭サポートネットワーク」については以上です。

◎：（杉山）ありがとうございました。質問はありますか。

●：　質問ではありませんが、どうしてもっと早く説明していただけなかったのでしょうか。議論を始める前に言っていただかないと困ります。残念です。

○：（菊地）区として現在、区が取り組んでいることや「次世代育成支援計画」についてもっと詳しく説明できれば一番良かったと思います。ただ、時間がない中で区民会議を行っておりまして、「次世代育成支援計画」を皆さまに自主的に読んでいただき、そこで何か質問等がありましたら十分それに答えるつもりでした。遅くなったとご指摘されればその通りです。

学識委員から、新宿区次世代育成協議会の進捗状況と区民会議で行われていることが、重なってしまってもいけないし、お互いの意見を聞きながら進めていくことが必要だという提案がありましたので、今回、説明させていただいたしだいです。

皆さんも「次世代育成支援計画」をお読みになって、こういうことをもっと区は説明した方が良いのではないかということは、どんどんおっしゃってください。ただ、決められた分科会の中での説明なので、皆さんの了解が得られれば30分でも１時間でも時間をとって説明させていただきます。

●：　子どものことについては色々な観点で重なっている気がしました。これを無くすことが一番重要なのではないでしょうか。もっと具体的にできないかということもあります。また、一番肝心なのは私たちが討議している親教育が、新宿区次世代育成協議会では議論されてないという点です。子どもを育てるのは親で、議論をしている私たちではありません。親教育なしに子どもは育ちません。そこをしっかり考えていただきたいです。

○：（菊地）次期の区の基本構想、基本計画に関しましては、区民の皆さまの視点で考えていきたいということで区民会議を行っております。確かに今、福祉部で行われている議論と重なるところがあると思います。ただ、区民会議に参加している区民の方々の生活者としての視点や学識委員の方の視点は、次世代育成協議会の視点と違うと思いますので、両方の視点から考えていき、区としてこれらをひとつにして進めていく必要があるわけです。ですから、区民の方々の視点も十分に理解したいということで区民会議を開いているわけです。お互いの情報はできるだけ区の方からも提供はするようにします。ただ、やはり今までの行政のやり方では、決まった人たちを集めて、決まったように議論していては、今までと同じ施策になってしまうのではないか、もっと総合化していく必要があるのではないかということで、今回は区民の皆さまからの視点で、区の組織の縦割りではない基本構想・基本計画を策定していこうという思

いから区民会議を行っておりますので、そういった意見も十分踏まえながら今後も進めていきますので、よろしくお願いします。

○：（関原）親教育についての視点が無いというご指摘がありました。新宿区次世代育成協議会の委員の方からも「親をどのように支援していけばよいのか」という意見があります。そういった課題として提議されています。部会の中で全部を盛り込んでいくのは難しいと思いますので、是非、区民会議でも親への教育・親への支援の視点から意見をいただきたいと考えております。そして、区民会議で出された意見を「新宿区次世代育成協議会」の方へもフィードバックできればと思っております。また、親教育そのものということではありませんが、「子ども家庭サポートネットワーク」の子どもの虐待防止に関する部会、子ども学校サポート部会、発達支援部会の中でもそれぞれ、お子さんの親御さんがいますので、親御さんへの支援についても個々のケースとして違うとは思いますが、議論しています。是非、区民会議でもご議論いただきたいと思います。

●：　子ども家庭サポートネットワークの中の「子どもの虐待防止に関する部会」と教育委員会の小中学校等を所管する部署との連携はあるのでしょうか。

○：（関原）「子どもの虐待防止に関する部会」の構成員の中には学校の教諭も入っております。ですから、直接、お子さん一人ひとりに関わっている教育機関の関係者の方々がおられますので、その時に応じて、どんな支援ができるかという視点で、参加していただいているという状況です。以上です。

◎：（杉山）確認なのですが、「新宿区次世代育成協議会」において、区民会議でこのような議論が行われていることは知っているのでしょうか。

○：（関原）「新宿区次世代育成協議会」においても区民会議の話は出ていました。「次世代育成支援計画」の進行を見守ることが「新宿区次世代育成協議会」のひとつの役割です。現在、「次世代育成支援計画」は平成 19 年度に見直しがされる予定です。なぜ 19 年度なのかと申しますと、現在、次期の基本構想を検討しており、これについては区民会議を立ち上げて区民の方々に議論を深めていただき、今後、区民会議から提案をいただき、基本構想・基本計画に向かっていくという説明をしております。

◎：（杉山）やはり、基本構想という柱があって、次世代育成支援計画という柱があってという印象がぬぐいきれないところがあります。今、どうしたら良いかというのは少し難しいので、今後、どうした位置づけにすれば重ならず、お互いに補い合いながら統一の理念で施策を進められるか、区は推進体制として考える必要があると思います。

　構成員についても区民や学識といった、それぞれの立場が違い、また子ども家庭サポートネットワークの中には現場の方も多いという印象を受けました。それぞれの立場で何が出きるか、今後のどのように進めていくか、汐見委員と相談して、学識委員として提案をしていきたいと思います。

　ありがとうございました。それでは７時半まで約 35 分、前回の討議の続きをそれぞ

れのグループで議論してもらい、今日発表の地域グループの委員は発表の準備をしていただきたいと思います。

３．グループ討議

４．地域グループの発表と討議

◎：（杉山）それでは時間になりましたので、発表に移らせていただきたいと思います。それから、ホワイトボードに書きましたが、次回から環境グループが発表される時は地域グループが司会をというかたちで組みましたので、お願いします。

＜板書＞

発表グループ	司会グループ
環境	地域
親教育	小中学生
青少年	乳幼児
小中学生	親教育
乳幼児	環境

また、皆さんのところに「グループ発表に対する意見・提案カード」というものが配られているかと思います。これは地域グループ宛に１枚ですので、発表を聞いて、意見、提案等をこの場で言えなかった場合は書いて出してください。では、マイクを司会の方にお渡しします。

●：司会（青少年グループ　陣出）

まず、発表の流れについて説明します。発表を 15 分していただき、その後、討議としまして 30 分ですが、最初の 10 分の発表に関しまして不明な点に関しての質問に、残りの 20 分をこうした方が良いのではないかという意見・提案にしていきたいと思います。質問、意見等は簡潔にお願いします。

また、10 分に１鈴、14 分に１鈴、15 分に１鈴の合図をいたします。

それでは発表をよろしくお願いします。

●：発表者（地域グループ　高山）

地域担当の高山です。地域グループでは新宿区の地域が子育てについては、どういった状況であるかを議論していたことを発表します。私からは子育てに必要な施設の現状を、その後、小津委員から問題提起を、秋田委員から解決策についての説明を行います。

では、まず皆さんのお手元に４枚つづりの子ども関連施設と小中学校の通学地域図等をお配りしておりますので、そちらを参照してください。３、４枚目については大変見にくいと思いますので、元になりました地図が後ろに張り出しましたので、興味

があれば、後ほど見ていただければと思います。

まず１枚目ですが、保育所を中心とした施設の位置として、区立認可保育園、私立認可保育園、保育ママ、保育室、認証保育所で分けたものを区から提供していただいたものです。区立認可保育園は 28 箇所、私立認可保育園は 10 箇所となっており、保育関係の施設及び人材が不足しているため、保育ママのような個人受け入れが、新宿区でも行われ始めている現状です。

２枚目は、子育てに関しての遊び場、相談所についての施設として児童センター、こども館、児童館、子ども家庭支援センター、地域子育て支援センター、民間学童クラブで分けられ、太字が名称になっています。当然のことですが、住民数、子どもの数に合わせて区や民間が施設を運営しています。

次に３枚目は小中学校の配置についてですが、拡大したものが後ろに貼ってございます。現行といたしまして、学校の統廃合が進み、落合地区では６校から４校へ、戸塚・大久保地区では６校から４校へ、牛込Ａ地区では、こちらは東側の地区になりますが、６校から４校へ、牛込Ｂ地区では５校から３校へ、淀橋地区では生徒数に合わせて少なくなる予定です。また、四谷地区では５校から３校へ統廃合されます。保育園等の閉所もあり、今後は跡地の活用が問題になってくると考えられます。

４枚目は公園の配置になります。大きい公園としては下のほうに新宿御苑や明治神宮の公園、真ん中に戸山地区があります。大きい公園としてはこれだけですので、総合的な大きな公園が必要になると思いますので、そちらのほうも問題提起で述べていきます。また、ホームレスについても問題になっていると思います。現状につきましては以上です。

●：発表者（地域グループ　小津）

地域グループの小津です。現状と問題点については重なっている部分がありますが、現状を踏まえまして、配布した「テーマ：子どもの安全な居場所のためにスペースを確保」の資料と前の画面に表示されますパワーポイントを使って発表します。

まず、学校の問題点としては学校区が崩れ、地域性を失っていることが挙げられます。次に、保育園においては親が地域に入る時間がないという点があります。

学童クラブについては、先ほど現状で出ていませんでしたが、保育園とともに需要が高まってきています。この背景としましては、地域との関わりを持たず子育てを行ってきた親たちが不安を持ったまま、子どもを地域に出すよりは、不安解消のために学童で一度様子を見てみるということがあります。問題点としては、学童における親たちのつながりはあるが、地域と親とのつながりが難しいという点があります。

公園については、公園の安全性等の問題があり、なかなか利用されない。また様々な人の意見を区が聞いてきたため、子どもたちが利用して楽しい公園ではなくなってしまったということがあります。他に、安全に遊ばせられないホームレスの存在が大きいのではないかと考えます。

まとめとしまして、地域性の減少によって地域と学校、地域と公園など地域が支える関係が失われて、子どもの安心・安全に遊べる場がない、安全で自由に使えるスペースがない、学校や児童館、公園等の既存の施設が自由に利用できない、既存の公園の安全が不十分、地域の団体や地域の人たちと学校の間に距離感があって利用ができない、またニューカマーとオールドカマーの関係が構築できない、このニューカマーとオールドカマーについてですが、ニューカマーは新住民、これには外国人も含まれます。また、オールドカマーは旧住民でして、新住民と旧住民との間での信頼関係が築けていないという問題点があります。時間があまり無いようですので、残りについては皆さん各自で資料を読んでください。では次の解決策について秋田委員にバトンタッチします。

●：発表者（地域グループ　秋田）

地域グループの秋田です。解決策としまして、各機関と地域の関係を見直し、「新しい地域」を創造することが必要ではないかということです。３つの具体的な提案を挙げます。

まず一つ目は、各機関が地域のニーズに対応した運営をする。ここで各機関というのは学校や保育園等を総称して各機関と呼びます。具体的には、開館時間の変更や利用者の意見への対応を指します。二つ目は、各機関の地域への解放を積極的に行うと同時に行えるような管理体制に努めることです。例えば、土・日曜日の利用や企業内保育園の地域への開放です。管理体制では、例えば土・日曜日に学校を開放するのであれば、初めから開放する用途ごとに立ち入り区画を仕切れる構造にする。三つ目としまして、地域の人が集えるような拠点をつくることがあります。例えば、地域センターに地域の子育て中の親たちが集まれる場所をつくるといったものです。

次に、行政に対しての取り組みです。これまでは行政や機関からの呼びかけで、地域の自主活動が出来てきました。今後は地域の良い活動を行政や機関がサポートしていくということです。加えて重要なことは「良い事例を各地域で」という発想を変えてほしいということです。例えば「戸山遊び場」や「ゆったり一の」といった各地域で行っている良い事例も、その地域だからこそ良いのであって、他の地域で良いかというと、そうではないからです。行政は、良い事例があると、「それを別の地域でも」といって進めていく傾向がありますので、それを止めていただくということです。

また、行政や議会に対してですが、財源がないからできないというのではなく、区債を発行する等、様々な手段を考えてもらう。また、今までは区から助成しますという方法でありましたが、もともと区の持っているお金は区民のお金ですので、それを区民に返すという発想もできます。例えば市川市の例で言いますと、正確ではありませんが、税金の１％を団体に預けて、その使徒を市民の投票によって決め、ＮＰＯに寄付するといった例があります。こういった財源自体を区民に還元するといった発想が必要です。

また、これは私個人の意見ですが、区民会議を公聴会風に開催して、このような意見が出てきたからやっていく、区民の声を聞きそれを施策にしていくというのが今までの行政のやり方ですが、この場は公聴会の場ではないと思います。具体的な施策を提案する場です。今後、例えばすべての区民会議委員がオンブズマンというかたちで、ひとつひとつの施策を具体的に提案するのかということが、今後の区民会議の課題ではないかと思います。以上です。ありがとうございました。

●：司会（青少年グループ　陣出）

地域グループの皆さん、ありがとうございました。

では、今の発表について、このような点が分からなかった等の質問を受けたいと思いますので、質問のある方はいらっしゃいますか。

●：距離感という話しがありましたが、その問題については小中学校グループでも挙がっています。これはなんとかしなければなりませんが、ＰＴＡ等の問題もからんでいますので、今後、小中学校グループでも出る問題かもしれません。

ニューカマー、オールドカマーについての問題は、どの地域でも起きています。区だけでどうにかなる問題ではありません。町会も長くから住んでいる高齢者の意見で、活動が左右されて、若い方々が入って来ない問題があります。それを壊さなければならないと思います。

●：「地域」をどのように定義しているのでしょうか？

●：地域グループ

基本的に新宿区内をいくつかに分けた区域としています。先ほど述べましたように、その中で「四谷地区」、「落合地区」など行政が区切る地域で考えていました。

●：行政が決めた地域を地域とするということですか。

●：地域グループ

行政が決めた地域がありますので、それを基本として地域としました。

●：行政の区分けだと、地区によって人口の動向なども違ってくると思うのですが。

●：地域グループ

地域ごとに特徴が違うということもあるでしょうから、それは提案をしていただきたいと思います。

●：例えば小学校の所在地を中心にとらえた地域等、もっと細かく分けないと、うまくいかないと思います。

●：地域グループ

解決策の中で対応していくのではないかと思いますが、１５分という発表時間の中では、これ以上掘り下げられませんでした。

●：現状分析の部分で、ニューカマーやオールドカマーの問題がありました。町会や商

店会などの既存の組織が、どれだけ住民についての情報を持っているのか。実際、町会という名前の組織であっても町会の役員は、どれだけ町会の会員について把握しているのか。また町会内の情報伝達の手段についても問題があります。さらに、町会は、町会に入っていない人が活動などをしていても関わりません。逆に町会が行っている活動に、町会の会員以外の者が参加されては困るというように、町会に加入しているかどうか、という軋轢が大き過ぎると思います。こうした加入者と非加入者との境界線をどうやって壊すかを掘り下げていただければ良かったと思います。

●：地域グループ

その点が一番の問題だと思います。これからもそうした意見を多く出していただければ、分科会としても良いものになると思います。

●：地域を子ども一人ひとりが住んでいる近隣地域、つまり子どもが単独で歩き回れる範囲を地域と考えると、現状では安全で自由に遊べるところがありません。また現在の公園は、空間があるだけで機能していません。美しくもなく、和みもなく、ヨーロッパの広場のようなコミュニケーションの場が理想ではないでしょうか。しかし、現状ではその唯一の空間が、理想のようには使われていません。何か工夫をして、自然にコミュニケーションの取れる場をつくり、そこへ行けば楽しい、会話も生まれる。それによって、連帯感が生まれる。地域の子供の顔を地域の大人が、皆で知るようになれば、子供が安全に遊ぶことができるようになるという機能や仕組みを考えなければならないと思います。

また、地域の組織が弱まっているのは、小さな近隣単位での地域で、連帯感が弱まっているからだと思います。連帯感が強くなるような仕組みについての解決策を聞きたいと思います。

●：地域グループ

確かに指摘されたことは、地域グループとしても痛感しています。解決策の中で当然考えていくべきと思っています。

ＮＰＯ団体の業界では、環境、国際貢献などのテーマ（イシュー）をひとつの核にして地域をつくるという考え方があります。例えば、公園というテーマを核に地域をつくるということです。グループの中では、地域の概念についてはまだ修練されていませんので、事例を参考に今後進めていきたいと思います。

●：児童遊園については、ニューカマーやオールドカマーの格差の問題より、ホームレスの存在が問題だと思います。それについてはどう考えているのでしょうか。

●：地域グループ

児童遊園自体が、様々な禁止事項により利用者が減ってきています。児童遊園に行ったとしても、人と人とのつながりが弱くなったことから、そこで遊びが広がらなくなったり、楽しい場所と感じられなくなったりで、利用が減ってきています。その隙間に入ってきたのが、ホームレスなのではないかと思います。児童遊園自体に魅力が

なくなっている中でホームレスもいることで、親が心配して子どもを遊びに行かせられなくなったのではないでしょうか。これらについては様々なことを組み合わせながら考えていかなければと思っています。

　ホームレスといえども人間です。単に公園から排除すれば済む問題ではなく、彼らのための支援や施設の整備も必要ではないでしょうか。

●：「地域」の概念ですが、乳幼児グループの感覚では、ベビーカーを押して歩く距離が「地域」であるし、それが小学校区域となり、「地域」は、子どもが成長し行動範囲が広くなると共に、広がっていくのではないでしょうか。一概には言えないと思います。

　また、斬新な今後の提案が出ましたが、この分科会で私たちが話し合っている提案や新しい発想を持って地域に帰っても、それをいざ話し合おうという時、特にニューカマーとして新宿区に住み着いた分科会の委員はどこに入って話せば良いのか分かりません。ニューカマーの人たちのためにも、どこへ行けば話し合いができる等の情報を発信してほしいと思います。

●：地域グループ

　小学校や中学校は教育の場として充実していますが、それ以外ではあまり活用されていません。そういったスペースがありながら、活用されていないところが多いので、授業以外の時間で、こうした子育てについて話し合える場所をつくりたいと考えています。ただ、どこで運営するのかといった課題が出てくると思いますが、そこに地域の人も関与したり、小中学生などの意見を反映したりしても良いかもしれないと思いました。

　問題が見えてきたように思えます。地域を考えるうえで、ベビーカーを押して行ける距離という乳幼児の時期は少し特殊になってしまいますが、子どもが育つ過程で必ず何らかの施設が関わってきます。保育園や教育機関等の各機関と地域をつなげていくことが必要だと思います。地域で子育てを考えるうえで、教育機関等が担うべき役割はあると思いました。

●：学校の管理責任者の方々は、土日はお住まいの地域に帰っていただき、学校はその地域の人たちが自分たちの責任で管理するのが良いのではないでしょうか。そして管理責任者の方々は、自分の地域に関わるという生活の仕方が、全員が公平に地域に関わっていけるのではないでしょうか。

●：問題点や解決策などで、小中学校グループと重なっている部分が多くあります。この先、第１分科会の統一したものをどうつくっていくのでしょうか。グループ発表の意見を踏まえて、これから３・４ヶ月、どう進めていくのでしょうか。

◎：（杉山）まず、グループごとに出ている現状や課題の考えを共有したいと思います。今日のように、話を聞いて案をバージョンアップするといったことでも良いですし、まとめられるものは、まとめてしまえば良いかと思います。全グループの発表が終わるまで、今日を含めて３回行う予定です。

　その後は、区民会議や分科会の位置づけまたは、基本構想・基本計画とは何なのかを再確認していただきたいのです。もう一度、子育てや教育の現状や課題が見えてきた段階で、なんのために区民会議を開いているのか、区民会議ではどういったものを提案していけば良いのかを説明するつもりです。これは初めに説明されてもピンと来なかっただろうと思います。全てのグループ発表が終わった後で、示したいと考えています。また、皆様の発表を聞きながら、どういった示し方が良いのかを事務局と一緒に考えて行きたいと思います。

●：皆さんの意見を聞いてからだと、意見が学識委員のさじ加減で選ばれてしまうということですか。この会は言いっぱなしで終わってしまうという不安があるのですが。私たちは基本構想・基本計画のお墨付きのために集められているのでしょうか。むしろ、そうしたことを始めのうちに説明されたほうがやる気も出て良いと思います。

◎：（杉山）ひとつひとつの意見について、行政担当者が判断するということではありません。これまでは、なんでも行政が進めてきて、区民は知らないうちに物事が進められてきて、もやもやしたものがありました。区長はこの関係性を変えたい、一緒にやっていきたい、と言われています。分科会としても委員として提言したということは、行政と一緒に行動していく責任がついてきます。ここで話し合った事は施策として実現しますということを、もっと落ち着いた形でまとめていくことをお話ししていきたいと思います。

５．学識委員からのコメント

◎：（汐見）私個人の意見ですが、今日の発表のメモを見て思ったのですが、子供用の施設を多くつくれないのは明らかですが、地域には学校など有効に活用すれば、活用できるような既存の施設が多くあります。それが現状では、なかなか活用しきれていない。それは、ホームレスや、学校の管理の問題など様々な要因があります。日本は社会体育の発達が進んでいませんので、サッカーやバレーボールといったスポーツを地域住民が楽しもうとした場合は学校を活用するしかないわけです。しかし、なかなか学校は利用を認めてくれないのが現状です。したがって、現在の既存の施設を有効に利用できるかどうかによって、新宿区の子育て環境が変わってくるといった提案だったと思います。そこで、行政のあり方を改善すれば良いということが、はっきりしてきたように思えます。例えば、縦割りの行政を改めることなどが挙げられます。

　千葉県習志野市の例では、秋津小学校と秋津団地の合同運動会をきっかけとして、地域の方々が、様々な形で授業にかかわるようになりました。また、体育館も開放されるようになり、ついには、地域の住民で運営委員会をつくり、教育委員会から体育館の夜の管理を許されました。今では年間、延べ１万数千人の地域住民が利用するようになりましたが、経費は３万円程度という状況です。昼間はスポーツ以外でも将棋のコーチや宿題のサポートなどにも参加しているそうです。

　このポイントとして昼間は学校が、夜は運営委員会が管理している点にあると思います。これは未来の地域づくりのひとつのモデルであると思います。地域にどう責任母体をつくるのか、モデル地域をつくるのも良いかもしれません。地域も学校区ごとが良いのか、保育所単位が良いのかといった検討も必要でしょう。

　例えば子どもが多く住んでいる地域をモデルとして選び、実行してみて、問題点や解決策を見つける方法もあります。新宿区でこうした施策を行うためのハードルは何んなのか、その解決策としてこういった方法があるという提案をしていただけると、行政、議会共に納得すると思います。是非建設的な提案をしていただきたいのです。

　今日の発表では、だいぶテーマは絞れてきていると思いました。

●：汐見先生の話に関してですが、東京だと、情報が正確に子どもまで伝わらないので、小学校区より少し狭い地域でつくった方がいいと思います。また、自主的に責任母体が出てくるのを待っていてはいつになっても実現できないので、基本構想などに盛り込んでみてはどうでしょうか。

◎：（汐見）秋津小学校は「親父の会」という母体が最初のきっかけでした。しかし、例えばＰＴＡが母体となって地域組織をつくり、その場合は学校単位になるのですが、そこへ子どもを巻き込むという形もあります。あるいは、保育園や幼稚園の親を単位にするか、それはどちらが良いか分かりません。一通りでは無いような感じがします。それを議論していただきたいと思います。

●：新宿区では、学校は学区にかかわらず選択できるので、それを前提にして考えて行きましょう。

◎：（杉山）発表全体の感想を話していませんでしたので、手短に話そうと思います。発表のなかで、「トップダウンでなくボトムアップで決めていきましょう」や「良い事例ができたから全ての地域で、同じことをしましょうという発想はやめよう」というのはその通りだと思いました。各地域のことは各地域の住民が必要な施策を考えてもらうこととして、分科会では地域の区分の分け方などを考えて提案するのがひとつの方法だと思います。また、箱や枠組みをつくるだけでは不十分で、地域の担い手をどう育てるかが重要です。最初は仕掛けが必要で、そのあたりを具体的に考えると良いと思いました。

●：私は、地区協議会にも入っています。区民会議で話し合っていても、区を通して区民会議の提案が各地域に示されても、各地域には受け入れられないと思います。実際に動くのは地域の人間ですが、地域の方は上から言われたことでは動きません。参加できる方は是非地区協議会にも参加して、ここで勉強したことを地域に流せるパイプ役になってほしいのです。細かいところに関わる提案と、大きいところに関わる提案の両方に関わる方を増やすことが重要かと思います。例えば、町会の進めていることが学校のＰＴＡの耳に届かない。また、その逆もあります。さらに、保育園の場所の話も先ほど出ていましたが、こどもの居場所の事業について、区も様々な施設を貸し

出しするなどの検討を進めているようなので、これも合わせて、地区協議会でも勉強していくことが良いと思いました。

●：司会（青少年グループ　陣出）

それでは時間となりましたので、最後に学識委員の汐見委員に感想のまとめをいただきたいと思います。お願いします。

◎：（汐見）地域が活性化するには組織が無いと無理です。これまで日本では上からつくられてきましたが、今はそれでは動きません。しかし、下からつくるというのもイメージが湧かない。それならば、どうしたら良いかという問題がポイントとしてあります。学校や保育所などを地域の自分達のためにどう有効に使うか、テーマごとに立ち上がっていくような、いわば第四セクターとも言えるような立ち上げかたが有効なのではないでしょうか。その可能性を追求しない限り、新宿区が他に先駆けて施策を始めることはできないように思えます。この課題は大きいですが、日本の在り方を変えていくことに直結しているテーマでもあります。初めは、ひとつのモデルをつくることから始まるのではないでしょうか。是非、今、申したようなテーマに挑んでいただきたいというのが率直な感想です。以上です。

６．事務連絡

○：（菊地）陣出委員、司会を務めていただいて、ありがとうございました。

最後に事務局からの連絡事項です。まず、区民会議としての中間発表の日程が決まりました。平成１８年２月１９日、日曜日になります。場所は人数も多いため、牛込箪笥地域センターホールを朝から夜まで予約しております。発表方法や時間については、各分科会の中から選出していただいた区民委員と学識委員で検討していただく予定です。また、大イベントとなりますので、司会やパソコン操作など得意分野をお持ちの委員や興味のある委員は事前にお話していただければ、お願いしたいと思います。

次に、お配りしています第４回「新宿まちづくり学」講座が１０月１９日に予定されています。テーマは環境で、お二人の先生にお話していただきます。是非そちらもご参加いただければと思います。

最後に次回以降の日程ですが、１０月２０日１４時から１６時まで、１０月３１日１８時半から２０時半で、場所は今日と同じ新宿区役所第一分庁舎７階研修室となりますので、よろしくお願いします。また、１０月２０日の分科会終了後に交流会を行う予定です。参加できる方はよろしくご出席願います。

どなたか交流会の運営等をご一緒にしてくださる方がいらっしゃれば、声をかけてください。それでは、本日はありがとうございました。